

2010 FID JAPAN BASKETBALL CHAMPIONSHIPS in OSAKA

戦 評

月日：2010年8月1日（日）

会場：大阪市中央体育館

男子決勝

主審：長峯 善智	副審：岡本 圭司	戦評：小嶋 隆司
----------	----------	----------

チーム A	11 - 8 16 - 16 15 - 10 19 - 11	チーム B
PWL メイジャーズ		秋田県チーム
(神奈川県)		(秋田県)
<u>61</u>		<u>45</u>

昨年の覇者、PWL メイジャーズ（神奈川県）と昨年準優勝のつばさクラブ（東京都）を準決勝で破り、初の決勝進出をした秋田県チーム（秋田県）との初の顔合わせとなった。個人能力の優れた選手を持つ PWL メイジャーズに対し、若く機動力のある秋田県チームがどのように戦うか関係者が見守る中、Tip off した。

《スタート》PWL：④、⑤、⑥、⑦、⑧ 秋田：④、⑤、⑦、⑨、⑭

【第1ピリオド】

両チーム共に 2-1-2 のゾーンディフェンスでスタート。PWL⑦高木のシュートが決が、秋田④斉藤の3ポイントで応戦し、一進一退のゲーム展開となる。PWLは⑤守屋、⑥中野の長身選手にボールを集め、インサイドで攻撃を展開する。第1ピリオドを11対8とリード。

【第2ピリオド】

両チーム共にゆったりとしたゲーム展開。PWLはインサイドにボールを集め、確実に得点を重ねる。一方、秋田は⑦長岐のカットイン、⑭鈴木のみドルシュートが決まる。⑤谷のオフense、ディフェンス共にリバウンドに良く絡み、27対24とほぼ互角の戦いとなる。

【第3ピリオド】

PWLは④津恵がゲームをコントロールし、センターの⑥中野へボールを集め、⑦高木、⑧長谷部とのコンビネーションプレーが決まる。対する秋田も⑭鈴木、⑦長岐、④斉藤が外角からシュートを狙う。第3ピリオド終了し、42対34となる。

【第4ピリオド】

PWLは⑥中野に徹底してボールを集め、インサイドからの攻撃、またオフenseリバウンドを確実に取り、4連続ポイントとなる。秋田も⑭鈴木が積極的に3ポイントを狙うが、決まらず。残り2分を切り、PWL④津恵のステールから攻撃が決まり、点差を広げ勝負が決まった。最終的に点差は開いたものの、PWLの個人能力を最大限に生かした戦術と、若く機動力のある選手を有する秋田との懸命なる戦いは決勝戦に相応しい好ゲームであった。

2010 FID JAPAN BASKETBALL CHAMPIONSHIPS in OSAKA

戦 評

月日：2010年8月1日（日）

会場：大阪市中央体育館

女子決勝

主審：白上 徳生	副審：新子 真規	戦評：藤田 景一
----------	----------	----------

チーム A	10-22 16-10 8-28 21-18	チーム B
春日井クラブ		つばさクラブ
(愛知県)		(東京都)
55		78

昨年決勝と同カードとなった春日井クラブ（愛知県）とつばさクラブ（東京都）。互いに日本代表選手を多く有し、戦術も熟知している。昨年優勝している春日井クラブに対し、今年は優勝を是が非でも獲得したいつばさクラブの戦いとなった。

《スタート》春日井：4、5、8、11、25 つばさ：3、4、21、35、36

【第1ピリオド】

春日井クラブは1-3-1のハーフゾーン、対するつばさは2-2-1のオールコートプレスから2-1-2のハーフゾーンでスタート。春日井は5広瀬のシュートが決まり、9峯松、11井藤が確実にシュートを決める。対するつばさは、機動力を生かした33神田、3森下、インサイドの36新井がフル回転。4菊地もベテランらしいプレーを見せ、10対22で第1ピリオドを終了。

【第2ピリオド】

第2ピリオドに入り、春日井は2-1-2のオールコートプレスから、3-2のハーフゾーンに代え、本来の攻防のペースに戻す。一方、つばさクラブは21遠山、4菊地を中心にプレーを立上げ、26対32で前半を終える。

【第3ピリオド】

第3ピリオドに入り、春日井は集中力が続かず、ターンオーバーが連発し、逆につばさクラブは36新井、3森下、4菊地が得点を重ねる。セットオフenseになっても、4菊地が冷静に対処し、インサイド36新井を中心にゴール下で確実にシュートを決め、ワンサイドゲームとなる。第3ピリオドを終え、34対60とつばさクラブが一気にリード。

【第4ピリオド】

春日井クラブは立て直しを図り、5広瀬、9峯松、11井藤等が奮闘する。然し、第3ピリオドで開けられた点差を埋めることが出来ず、つばさクラブは若い選手が出場し、得点を重ねた。昨年の屈辱を果たしたつばさクラブが2年ぶりに優勝を手にした。